



# 「スポーツ・健康まちづくり」 優良自治体表彰2025

スポーツ庁参事官（地域振興担当）

# 「官民学連携モデルによる持続可能な地域共生社会の実現～コンディショニングから広がる日本一健康なまちづくり～」

＜目標＞ 計画期間：～令和 8年 3月 31日

住民の健康寿命延伸と医療・介護費の抑制 コンディショニングを日常生活に根付かせ、健康行動を町全体に浸透させる。  
 介護人材による健康づくり推進 R-body ACADEMY介護コースを導入し、運動指導ができる介護士を育成。  
 官民学連携モデルの確立と全国展開 町（官）× R-body（民）× 東川国際文化福祉専門学校（学）の連携で持続可能なまちづくりを推進。  
 数値目標（KPI）  
 コンディショニングイベント参加者数：2023年度5,000名 → 2028年度9,000名 公共ジム月平均利用者数：2023年度800名 → 2028年度1,200名  
 通所型サービス「はれのひ」体操参加者：2025年度1,390名 → 2028年度2,400名 介護コース学生の運動指導実習参加率：2025年度50% → 2028年度90%

## ＜PRポイント＞

- 【介護人材がコンディショニングを担う全国初のモデル】 介護士が住民の健康づくりに直接関わる仕組みを構築。
- 【官民学連携による持続的体制】 町・R-body・専門学校・地域の通い場が一体となった地域包括モデル。
- 【国際性・波及性】 留学生を含む人材育成により、国内外で展開可能なモデルとして発信。

## ＜現状・課題＞

- ・移住者による人口微増の一方、高齢化率上昇と積雪、地理的要因による運動不足・社会的孤立
- ・デイサービスセンター（通所介護）の休止を受け、官学連携で通所型サービス事業を開始
- ・高齢者×学生×子育て世代の交流による健康づくりと教育が循環する仕組みの形成
- ・官民学連携による健康づくりを担う人材の育成

## ＜総合的な取組内容＞

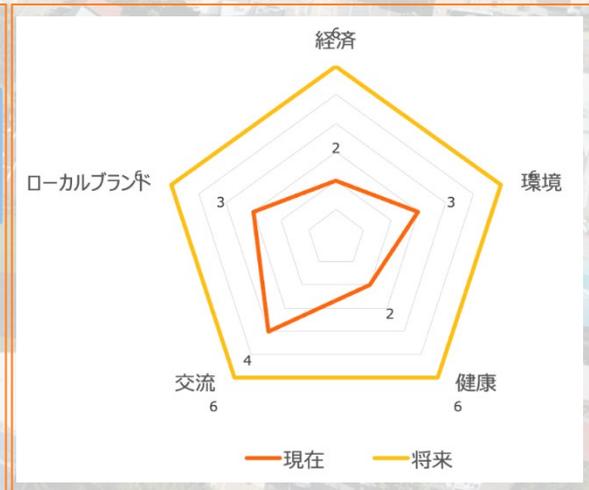


【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

## ＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



## ＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

東川町 保健福祉課 ライフパフォーマンス室  
電話：0166-82-2111

<目標> 計画期間：～令和10年3月31日

### サッカー移住者による地域活性化

【町主催イベント参加人数】	R7:1,000人	⇒	R10年:1,500人
【町営施設利用件数】	R7:132回	⇒	R10年:200回
【新規事業への参加人数】	R7:10人	⇒	R10年:50人
【交流事業の開催】	R7:1回	⇒	R10年:10回



### <PRポイント>

岩手町とI.S.Pが包括連携協定を締結。県内外の女子サッカー希望者の受け入れと、それに伴う移住・定住によって地域の活性化を図っている。

### <充実した環境>

- 女子スポーツの地域基盤
- 「学生寮」完備
- 町をあげての就労・定住支援（セカンドキャリア・アップ）



### <現状・課題>

人口減少や少子高齢化の影響により、スポーツ人口減少をはじめとする様々な課題がある。

- ホッケー競技者数は減少の一途を辿っており、中学生においては町の合同チームを結成し大会へ出場している状況。
- 県内初のホッケー競技場と人工芝グラウンドを有しており、更なる活用促進を図る必要がある。
- 東北新幹線「いわて沼宮内駅」の利用客数減少に伴い、駅を中心とした街の活性化に苦慮している。
- サッカー強豪地域だった面影はない。現在中学校・高校のサッカー部は廃部、小学生のクラブチーム1つのみ。
- 未就学児童及び小学生の肥満率が岩手県内第1位となっている。

### <総合的な取組内容>

「スポーツ人口増加」「肥満率の低下」「新規事業展開による活性化」などを促進するため、岩手町とクラブチームは、連携して以下のような取り組みを実施する。

#### スポーツ振興・健康促進



イベント企画・スポーツ教室開催

#### ローカルブランド力向上



地元企業就労

#### 施設利用促進



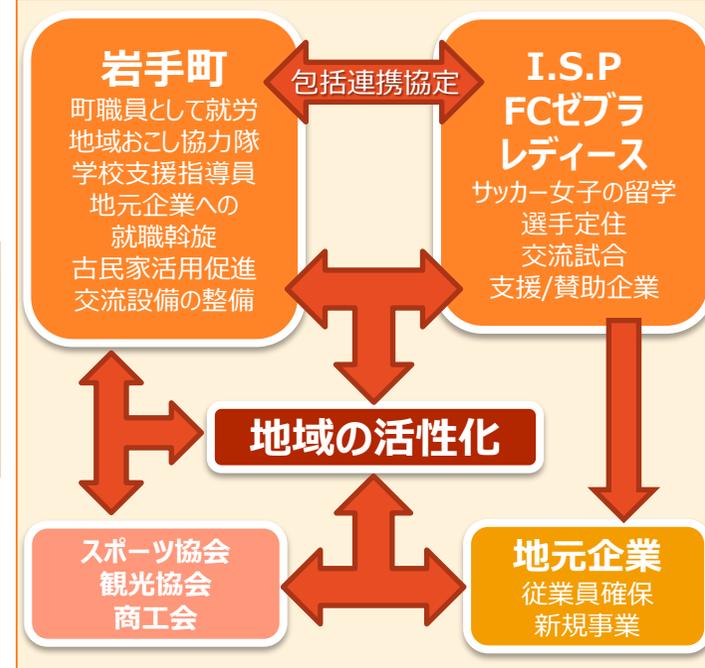
交流事業の推進

#### 地域の活性化

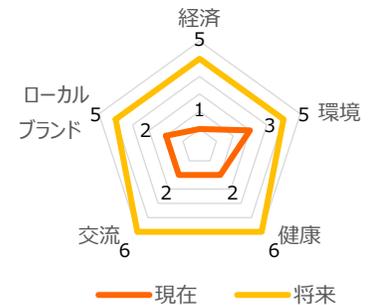


新規事業展開

### <継続的な取組を確保できる体制（図）>



### <セルフチェックシート>



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

岩手町教育委員会 社会教育課  
Tel: 0195-65-2111 (内線343)

# 弓とともに歩んだ町・利府町～「弓道スポーツ文化ツーリズム」プロジェクト！

スポまち！表彰2025  
③宮城県利府町

＜目標＞ 計画期間：～令和9年3月31日

- ①地域への関心度の向上 →体験参加者へのアンケートを実施し「利府町への関心が高まった」と回答した方が80%以上
- ②町SNS（インスタグラム）のPV数増加 →体験紹介動画のPV数 1,000PV以上
- ③体験プログラム及び弓道体験会に関わった町民の数の増加 →運営ボランティア協力人数 延30名以上

## ＜PRポイント＞

- ◎町にゆかりのある「弓道」を基軸とした新たなスポーツ文化の創造にチャレンジ！
- ◎「スポーツ×歴史文化×観光」の連携により、町の課題をマルチに解決！
- ◎インナーとアウトスポーツの両輪で「するひと」「みるひと」「ささえるひと」の多様な関わりによるまちづくりを実現！

## ＜現状・課題＞

利府町は2002年FIFAワールドカップなど多数の大規模スポーツ大会の開催場所となってきたが、「利府町独自のスポーツ文化」と問われると心もとない感があった。  
仙台空港や仙台港から30分圏内とアクセス性に優れ、町内には3つのJR駅と4つのインターチェンジがあり、優れた立地性に恵まれているものの、既存資源を生かしたインバウンド観光ルートができていない。

## ＜総合的な取組内容＞

### 【アウト側施策】文化体験型武道ツーリズムコンテンツの造成

- ①お呈茶カフェと“利府を知る入口”体験  
利府町に伝わる弓文化の歴史や精神性にふれる“入口体験”
- ②「利府の弓がよみがえる物語」～新たなスポーツ文化の創造に向けて～  
利府町の弓文化の再発見から「利府スポーツ流鏑馬大会」創出に至るまでの背景を映像で可視化
- ③利府町の歴史文化×伊達文化 × 伊達弓道：しきたり体験プログラム  
伊達家に伝わる弓術を体験用にアレンジした『伊達印西派弓術体験プログラム』の提供
- ④伝統工芸ワークショップ
- ⑤歴史コスプレ × フォトセッション
- ⑥地元弓道強豪校との交流（利府高校等）  
競技を媒介とした異文化コミュニケーションの場を創出し、教育に新たな付加価値を生み出す

### 【インナー施策】もののふ会の設立

上記コンテンツの実施に町内住民、弓道経験者等に参加いただき、

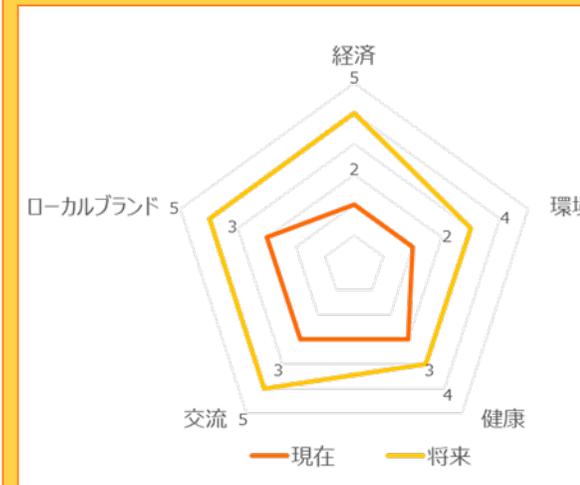
- ①弓道場の管理
  - ②ツアーのランドオペレータ
  - ③歴史伝承
  - ④弓道指導
- などマルチに対応できる「(仮称)もののふ会」の設立に向けた足がかりとする。



## ＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



## ＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号



利府町スポーツ振興課  
022-767-2190



＜目標＞ 計画期間：～令和13年3月31日

### アベベ・ビキラメモリアル かさま陶芸の里ハーフマラソン大会

☞スポーツを「する」ためだけでなく、多くの人々が楽しめる**笠間市の魅力を知ってもらう機会**を創出する

- ①スポーツ×国際交流 ②スポーツ×観光 ③スポーツ×ダイバーシティ

【KPI】エントリー者数 R7年度:1,700人→R13年度:2,000人、参加者市内宿泊者数 R7年度:10人 → R13年度:50人

### ＜PRポイント＞

- 💡 **スポーツ×国際交流**  
・エチオピア人ランナーを活用したオリンピックレガシーの継承
- 💡 **市内周遊の促進、リピーターの確保**  
・参加者向けの観光ツアーを提供、地場産品を活用した参加賞
- 💡 **多くの方が親しめる環境づくり**  
・サステナブル応援エリアの設置、引退ランナーによるボランティア等



### ＜現状・課題＞

- ・少子化によるスポーツ人口の減少、イベント閑散期における来訪客の増加、類似大会による参加者争奪戦
- ☞**多くの人々が参加できる、地域資源を活用した付加価値・集客力のある大会の開催が必要**

### ＜総合的な取組内容＞

ブランド化・ホスピタリティ強化

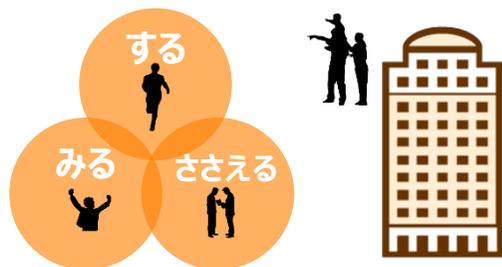


魅力的観光コース、地場産品活用



マラソン強豪国 エチオピアとの交流

多くの人々が参加、楽しめる仕組み



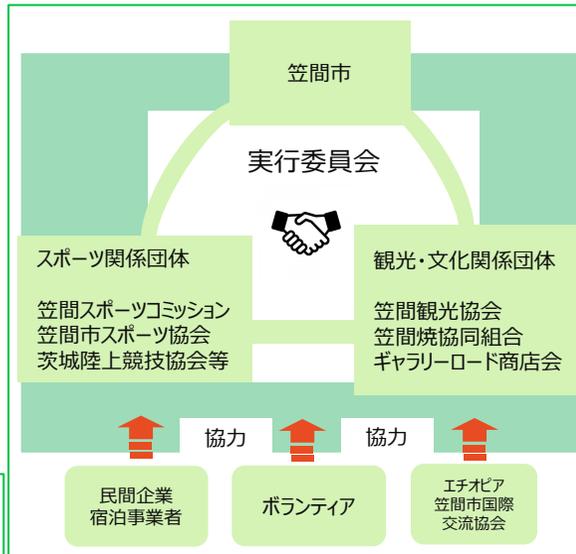
- ・参加者向けに観光ツアーを生成し、大会前後に巡る市内半日ツアーや宿泊観光ツアーを提供
- ・現役を引退したランナーをセカンドキャリアとして当日ボランティアとして採用

地域振興への寄与



- 「スポーツシティ かさま」の推進  
参加者 UP  
↓  
・国際交流 UP  
・健康増進 UP  
・地域振興 UP

### ＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



### ＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

笠間市教育委員会教育部生涯学習課スポーツ振興室  
TEL:0296-77-1101

国内最大級の“ビッグエアパーク”を核に、世界に誇るエクストリームスポーツの聖地へ ～茨城県境町が目指すスポーツを核としたまちづくり～

<目標>

計画期間：～令和11年3月31日



“ビッグエアパーク”を軸に「スポーツ移住促進」・「交流人口拡大」・「健康増進」等を実現！

- ①【移住定住の促進】 社会増減数：272人増（令和6年度） → **820人増**（累積・令和7年度～令和10年度）
- ②【交流人口の拡大】 交流人口：約85万人（令和6年度） → **約390万人**（累積・令和7年度～令和10年度）
- ③【健康増進】 ビッグエアパーク 延べ利用者数：約10,000人（累計・令和8年度～令和10年度）

<PRポイント>

●冬季オリンピック種目として採用されているスノーボード・ビッグエア等が通年実施可能な、国内最大級で世界レベルの常設ビッグエアパークを整備

- ①「わざわざ行きたくなる」町のシンボルとして、人々の文化交流拠点と情報発信の場
- ②アスリート育成環境整備 ⇒ **移住** / 住民向け体験機会創出 ⇒ **健康増進**
- ③「エクストリームスポーツの聖地化」横ノリ系スポーツに特化した集客・産業振興



▲整備中のビッグエアパーク



▲完成イメージ

<現状・課題>

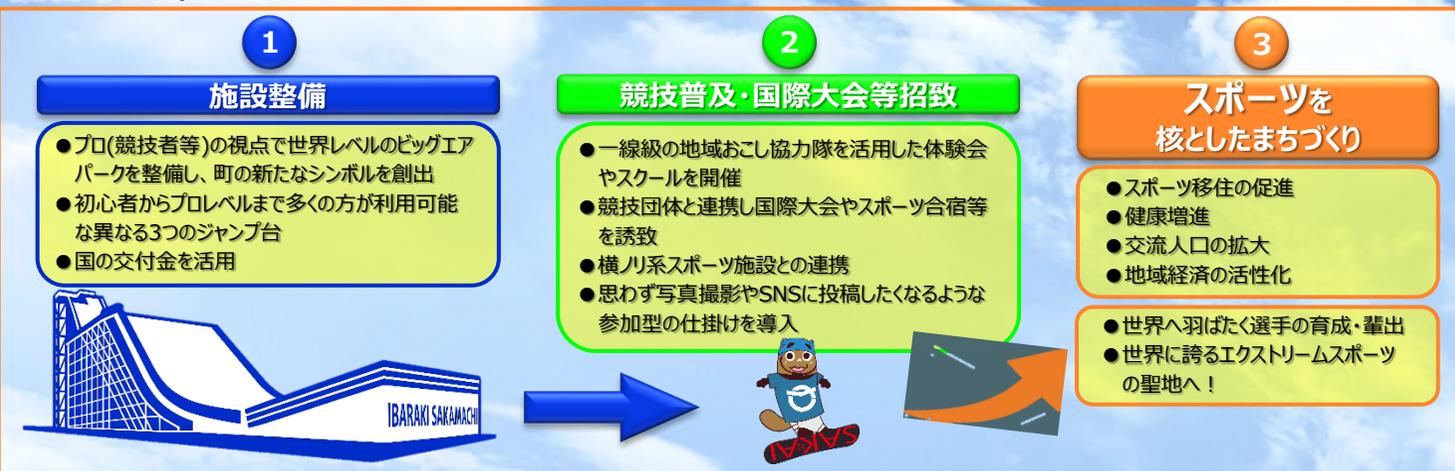
- 平成7年をピークに減少が続いていた人口が、**スポーツを含めた様々な移住定住施策**を実施した結果、令和7年4月1日現在人口が令和6年4月1日を起点とした人口増減において**67人の人口増を達成**し、平成29年度以来**7年ぶりの人口増**となった。
- 人口増加と経済活性化の好循環を持続させ、地域住民の健康増進を図るなど当町の**安定的な成長**に繋げるために、**行政だけでなく地域住民や民間事業者等が一体**となり、**スポーツが持つ価値の最大化**を図る必要がある。



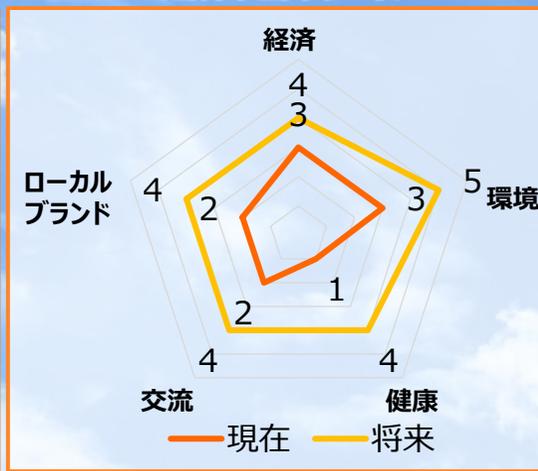
<継続的な取組を確保できる体制（図）>



<総合的な取組内容>



<セルフチェックシート>



【フォローアップ欄】 令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

# 産学官によるスポーツDXで熊谷を日本一アツいスマートシティへ ～AI技術で誰もがデータ分析にチャレンジできる街に～



スポまち！表彰2025  
⑥埼玉県熊谷市

＜目標＞ 計画期間：～令和 10年 9月 30日

1. 誰もがアクセスできる、スポーツデータ分析環境の提供／データ分析人材の育成
2. データに基づいた地域スポーツ強化／指導現場のDX
3. スポーツ施設DXによる施設価値・住民満足度の向上
4. 熊谷スポーツコミッションとの連携による地域内外へのPR・合宿誘致

★AIカメラ利用者数 50件以上 (R8.9末) ★配信ページ閲覧回数 500回以上 (R8.9末)



## ＜PRポイント＞

- ・誰もが自分たちのスポーツ映像データを簡単に記録・分析できる環境を提供  
…熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」に自動で試合や練習の映像を記録できるAIカメラを導入
- ・産学官五者での共同研究を開始  
…施策のモデルケースとして市内チームの戦術強化と、地域の学生を中心としたデータ分析人材の育成に関する調査を実施

## ＜現状・課題＞

- ・ラグビーワールドカップ2019™の開催地となるなど「スポーツ熱中都市宣言」を掲げ、スポーツ（ラグビー）によるまちづくりを実践している。スポーツ施設を軸に市民の積極的なスポーツ参加の推進施策が求められている。
- ・「デジタルと人の力で、社会を前に進めていく」まちづくりを方針とするスマートシティ施策を掲げ、重点的に取り組む分野の1つとしてスポーツ・健康分野を掲げているが、市民を巻き込む持続的な具体施策を必要としていた。

## ＜総合的な取組内容＞

熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」にスポーツ自動撮影AIカメラを導入



誰もが自分たちのスポーツ映像データを簡単に記録・分析できる環境を提供

産学官五者連携での研究をスタート



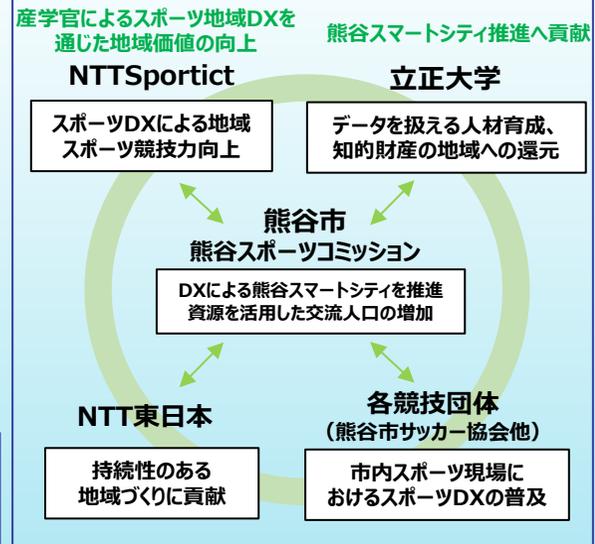
市内社会人サッカーチームの試合映像を地域の大学生アナリストがデータ分析しフィードバック→戦術強化に活用

市内のデータ分析人材を育成・スポーツで熊谷スマートシティを推進  
資源を活用した交流人口の増加



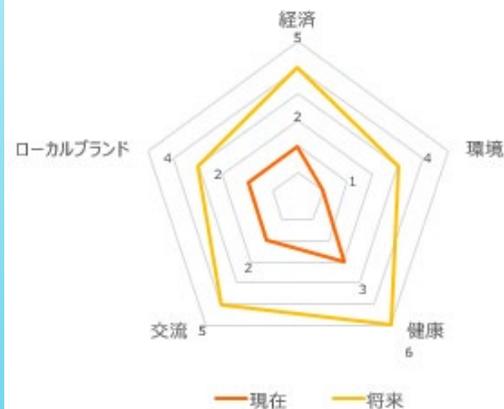
- ①他競技・チームの利用拡大→「スポーツ×デジタル」で新たなサービスの提供
- ②データ分析人材の教育育成→地域コミュニティ、キャリア形成へも発展
- ③PR・合宿誘致に接続  
→大規模大会、合宿誘致数の拡大。新規団体へのアプローチが可能。

## ＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



## ＜セルフチェックシート＞

スポまちセルフチェック



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

熊谷市総合政策部スポーツタウン推進課  
電話：048-524-1135（直通）

# 「買い物ついでに健康づくり！久喜市ピckルボール×商業施設プロジェクト」

＜目標＞ 計画期間：～令和11年3月31日

若年層のスポーツ実施率改善と「withスポーツ」の日常定着。商業施設を活用し、買い物と運動を融合させた新しい地域モデルを構築する。令和10年3月末までに体験参加者延5,000人。うち若年層の参加者40%。参加者満足度90%以上。NPS+40。経済効果850万円をKPI数値とする。

## ＜PRポイント＞

全国的に珍しい「商業施設×ピckルボール」の取組  
若年層のスポーツ離れという全国課題に正面から挑戦  
毎月イベント+健康チェック+経済効果測定による KPIドリブン型のスポーツ政策  
ファミリー・障がい者・学生ボランティアが参画し、多世代・共生・担い手育成を実現

## ＜現状・課題＞

20代スポーツ実施率28.3%と全国同様に低下傾向  
体育館など「特定の施設」に偏る参加機会  
日常生活の中に自然にスポーツを取り入れる仕組み不足  
人口減少による経済活動の停滞

## ＜総合的な取組内容＞

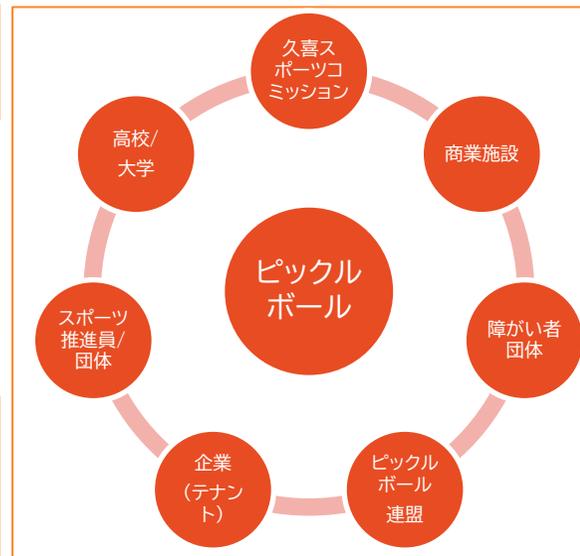
- 大型商業施設(アリオ鷲宮・モラージュ菖蒲)を中心に、月例でピckルボール体験会を開催(買い物ついでにスポーツを)
- 子ども～高齢者、障がい者も参加可能な初心者向けルールで展開
- 健康チェックコーナーを併設し、**楽しさと健康意識を同時に提供**
- 施設テナントと連携し、クーポン配布とアンケートにより購買行動を可視化、経済効果を推計
- 市内5つの高校や連携協定締結大学と連携し、学生ボランティア・市民団体・企業等と協力した持続可能な推進体制を構築
- 成果は複数のKPIで総合測定し、**スポーツ実施率・参加者数・健康意識・経済効果・イベント推奨度(NPS)**など毎年度複合的に評価



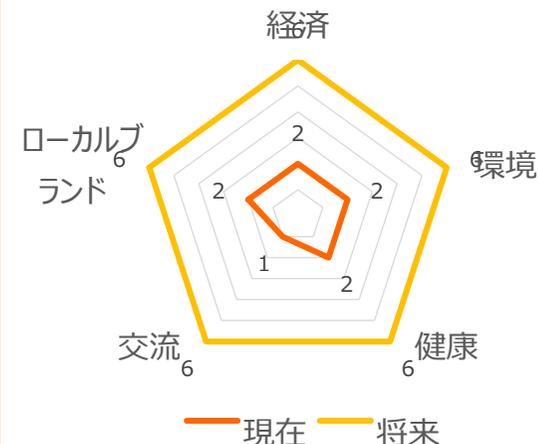
## スポーツを特別な行動から、日常の文化へ。

市民一人ひとりが、買い物や生活の延長で自然に体を動かす“withスポーツ”のまちを目指す。

## ＜継続的な取組を確保できる体制(図)＞



## ＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

久喜市 スポーツ振興課  
電話:0480-22-1111

# 寒川町ストリートスポーツを活用したONLY-ONEのまちづくり

〈目標〉 計画期間：～令和13年3月31日

## 関係人口獲得による持続可能なまちづくり

目標: KPI「ストリートスポーツパークの利用者数」現状値0人→ 目標値35,341人（2030年）

効果: 【地域経済の活性化】【地域ブランドの力の向上】【チャレンジする子どもの増加】

〈PRポイント〉

## ONLY-ONEのまちづくり

- ① トップアスリートが寒川町に集まっている（すでに世界チャンピオンが4人移住。日本チャンピオンも複数移住）
- ② 寒川町でしかできない地元アスリートと連携した事業展開
- ③ 世界でも唯一の屋内スケートボードストリートとBMXフラットランド専用施設の整備

〈現状・課題〉

今後、人口減少・少子高齢化が加速する中、持続可能なまちづくりが必要。  
そのため、寒川町特有の強みとなりつつあるストリートスポーツを活用して関係人口を獲得する。  
効果的に関係人口を獲得できるように新たな施設整備＆事業展開が必要。

〈総合的な取組内容〉

【取組】

- ・ 新たな公園にストリートスポーツ施設を整備
- ・ 地元選手と連携したイベント開催
- ・ 世界大会、日本大会の開催 など



屋内のスケボーとBMX施設



地元選手連携イベント

【効果】

- ・ 世界トップ選手への育成
- ・ 誰もがストリートスポーツを体験できる場づくり
- ・ 寒川町の認知度向上 など

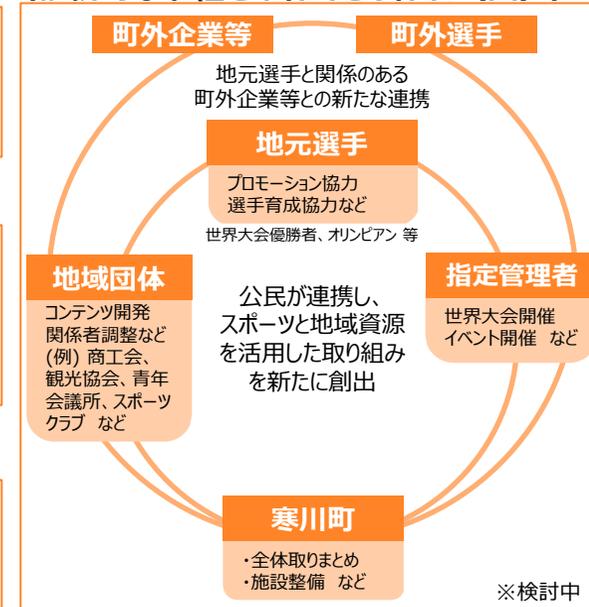
【目指す姿】

ストリートスポーツの聖地化

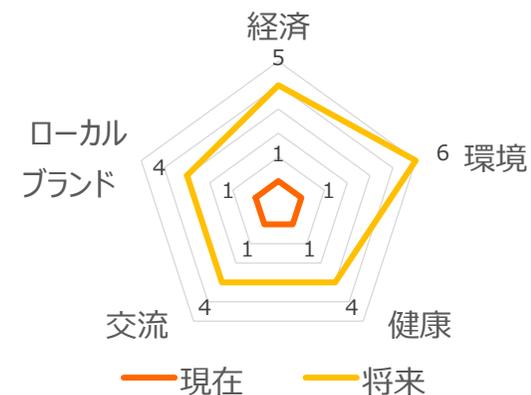
【目標】

関係人口獲得による持続可能なまち

〈継続的な取組を確保できる体制（図）〉



〈セルフチェックシート〉



# 御食国×スポーツまちづくり OBAMAモデル

＜目標＞ 計画期間：～令和10年3月31日

地域資源を活かした『「稼ぐ」「活かす」「育む」』のサイクルによる持続可能なスポーツまちづくりの実現！

- ①スポーツ参画人口の拡大【する・みる・ささえる】スポーツイベント参加人数 R6) 2,846人 → R9) 3,500人
- ②スポーツを通じたコミュニティの形成【する・みる】地区対抗スポーツ大会の参加人数 R6) 1,400人 → R9) 2,000人
- ③スポーツを通じた地域経済の活性化【ささえる】ふるさと納税額 R6) 529,255千円 → R9) 1,000,000千円

## ＜PRポイント＞

- ①御食国（みけつくに）などの歴史や食文化等の豊かな地域資源を活用したスポーツによるまちづくりの推進
- ②2000年から取り組んでいる「食のまちづくり」によって醸成された市民協働体制の活用
- ③北陸新幹線全線開業を見据えた、地域全体での受け入れ体制の構築の推進



▲「食のまちづくり」による  
高校サッカー部への栄養教室の開催

## ＜現状・課題＞

- スポーツ大会の参加者の固定化・高齢化や指導者不足等による、スポーツを通じた交流の希薄化やスポーツを定期的に実施している市民の割合の減少。
- 小浜市で毎年開催されている「OBAMA若狭マラソン大会」には県内外から多くのランナーが参加し、そのエントリー数は増加傾向にある一方で、市内企業からの協賛金が減少するなど、持続可能なスポーツイベントの実施に向けた運営体制の構築が必要。
- 市内のスポーツ施設の老朽化が進んでおり、多額の修繕費用が必要。

## ＜総合的な取組内容＞

**活かす** 地域資源である自然や歴史、文化、食、食のまちづくりを活かすスポーツ振興

- ・スポーツツーリズム（大会）の開催
- ・日本遺産等を活かしたモデルコースの構築（鯖街道マラソン・ウォーキング・サイクルリング）
- ・スポーツ食育事業の実施
- ・体験プログラムとのコラボ体験（ブルーパークとシーカヤック、SUP）
- ・スポーツ食育合宿の誘致



**稼ぐ** スポーツ振興事業が持続できるよう内貨や外貨を稼ぐ

- ・県内プロスポーツチームとの連携
- ・スポーツ合宿の誘致（スポーツ食育とのコラボ）や
- ・企業とコラボしたスポーツイベントやスポーツツーリズム（大会）の開催
- ・ふるさと納税、企業版ふるさと納税の活用



**育む** 市民や健康、コミュニティ、競技力を育む

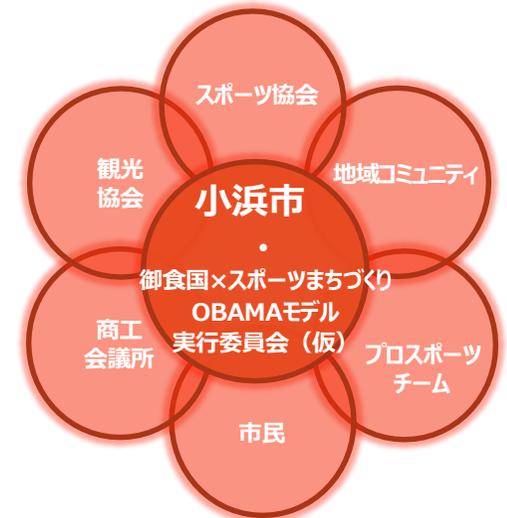
- ・ニュースポーツ、パラスポーツ、地元発祥スポーツ機会の普及
- ・部活動の地域展開
- ・競技者のレベル向上（プロ選手による指導）
- ・コミュニティを形成するスポーツイベントの開催
- ・保育、教育現場、親子での運動習慣
- ・スポーツをささえる機運や地域資源への愛着の醸成



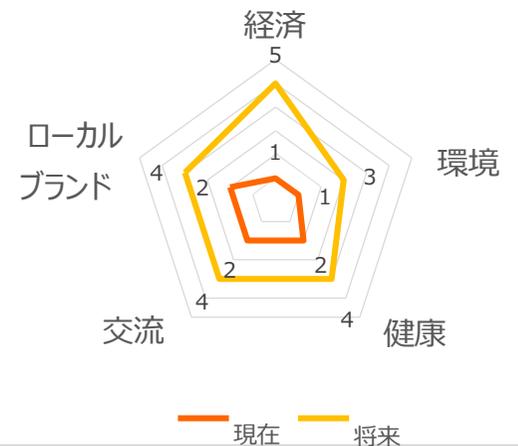
地域資源を活かした『「稼ぐ」「活かす」「育む」』のサイクルによる持続可能なスポーツまちづくりの実現！

【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

## ＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



## ＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

福井県小浜市総務部市長公室  
0770-64-6001

＜目標＞ 計画期間：～令和13年3月31日

## 「全国からパラスポーツを楽しむ人が集まるまち」を目指します！

- 清水区庵原地区内の各スポーツ施設を誰もが安心して利用できる施設に改修（ハード）。
- パラスポーツを支援する人材や団体を統括する組織化を支援し、誰もがスポーツを楽しめる環境を整備（ソフト）。
- 市民や民間事業者との共創により、スポーツが持つ力で社会的価値と経済的価値を結ぶ好循環を生み出す。

【庵原地区内のスポーツ施設利用者数：20,000人→36,000人、日本パラスポーツ協会公認指導者登録者数：54人→108人】

## ＜PRポイント＞

### ●静岡市はスポーツに最適な環境！

静岡市には、清水エスパルス(J1)やベルテックス静岡(B2)をはじめとする複数のプロスポーツチームがあり、市民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」など、様々な形で楽しめる環境があります！

その中でも清水区庵原地区には、プロ野球球団の本拠地である「ちゅ～るスタジアム清水」をはじめ、宿泊施設を備えたナショナルトレーニングセンター、パラ優先施設IAIパラスポーツパークなど、多彩な施設が集積！

### ●地区全体でパラスポーツ対応施設を整備！

同地区の「交通アクセス」「既存施設」といった強みを活かし、各施設を面的に整備することで、

全国初となる“ユニバーサルスポーツ推進エリア”としてまちづくりを推進！

## ＜現状・課題・総合的な取組体制＞

■パラスポーツに取り組み  
施設が不足している

■パラスポーツ統括団体の不在

■市民のパラスポーツに対する  
関心不足

### エリア内の施設整備



ちゅ～るスタジアム清水

清水ナショナルトレーニングセンター

障がいのある方が、優先的に利用できる屋内運動場を新設 (2026完成予定)

ユニバーサルスポーツの拠点及びプロフィットセンター化するための機能改修 (2025検討開始)

### 組織化と指導員増加



パラスポーツ統括団体の組織化

パラスポーツ指導員の増加

パラスポーツに取り組みたい人、パラアスリートを目指したい人等を支援する体制を構築

パラスポーツの指導や、市民の障がいに対する理解を向上するため、指導者を増員

### イベントや大会の開催・誘致



ウォーキングフットボール大会

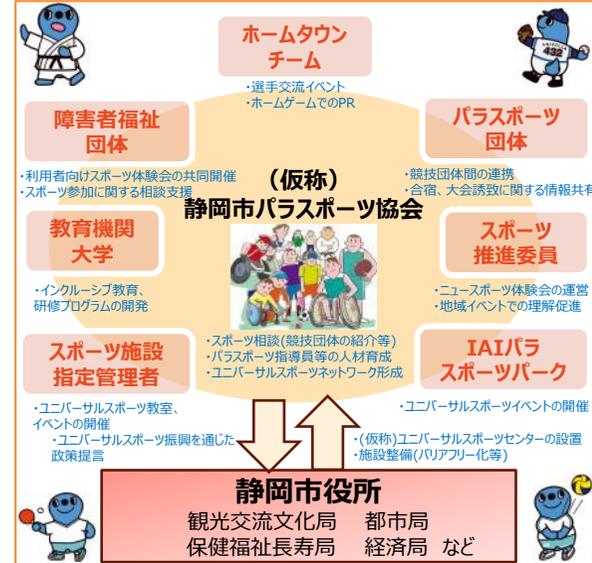
パラバドミントン国際大会

年齢、性別、障がいの有無に関わらず誰もが参加できるユニバーサルスポーツ大会・体験会の開催

国際大会・全国大会及び合宿を誘致し、選手による体験教室等を開催



## ＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



## ＜セルフチェックシート＞



静岡市を  
ユニバーサルスポーツの聖地に！

スポーツと産業、健康、福祉、観光、教育を融合させた  
地域活性化と共生社会の実現に繋げる。

# スポーツのチカラで未来を創る～いわたスポーツプラットフォームの共創の取組～

スポまち！表彰2025  
⑪ 静岡県磐田市

＜目標＞ 計画期間：～令和11年3月31日

- ① **スポーツを共通言語とした多様な主体による共創** KPI:プラットフォーム参画団体数 (目標140団体)
- ② **スポーツ×異分野によって、地域課題・社会課題に対する革新的な取組の創出** KPI:新規プロジェクト創出数 (目標6プロジェクト)
- ③ **持続可能なまちの実現、スポーツのまち磐田の進化** KPI:共創による取組件数 (目標18件)

## ＜PRポイント＞

- 世代・業界・立場を超えた**新たな連携**を生み出すプラットフォーム
- スポーツを『入り口』として**多分野の課題**に挑む革新的アプローチ
- **参加者が自ら**価値を生み出す持続可能なまちづくり

## ＜現状・課題＞

本市は、豊富なスポーツ資源と大規模スポーツイベントの成功実績により「スポーツのまち磐田」として歩を進めてきた。一方で、人口減少・少子高齢化・気候変動などの複合的な課題に直面し、従来の行政主導型施策だけでは解決が困難な状況となっている。そこで令和7年1月、プロスポーツチーム、企業、団体、大学、行政等をスポーツでつなぐ「いわたスポーツプラットフォーム」を立ち上げた。多様な主体がスポーツを共通言語として共創し、地域課題解決に向けた革新的な取組を創出する。

## ＜総合的な取組内容＞

**いわたスポーツプラットフォーム** 会員数 **71団体** (令和7年9月末現在)

プロスポーツチームや企業、団体、大学、行政などがつながり、課題やニーズを共有、意見交換しながら、スポーツを通じた地域活性化や共生社会の実現など社会課題の解決を目指します。

市は「対話の場」「つながる場」を提供し、共創を支援

### 知り合う

交流会の場を設け、会員同士が互いの強み・課題を把握できる出会いの機会を創出します



### 学びあう

有識者講演や事例共有を企画し、先進地の学びを促しつつ、課題への問題意識を共有する場を提供します



### つながり動き出す

会員の連携から生まれたプロジェクトをマッチング・調整・実証・情報発信で伴走支援し、成果を市内外へ届けます



### 腸活プロジェクト

【事業案】

- ・スポーツ腸活ラボ in IWATA
- ・親和性の高い「女性活躍プロジェクト」や「食プロジェクト」との連携 など

環境・産業・教育・福祉など、さらに他分野へ連携事業の拡大



### 動き出した 3つのプロジェクト

### 女性活躍プロジェクト

【事業案】

- ・女性アスリートの健康セミナー
- ・スポーツ×女性の健康ウィーク など



### 食プロジェクト

【事業案】

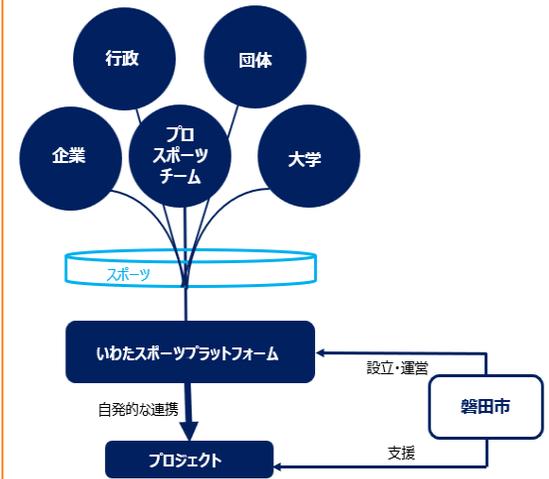
- ・アスリートと考える地産地消費
- ・スポーツ×農業商業体験プログラム など



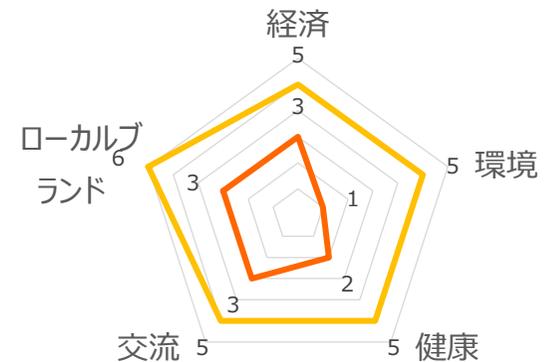
持続可能なまちづくりの実現

スポーツのまち磐田の進化

## ＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



## ＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

静岡県磐田市  
自治市民部スポーツのまち推進課 (0538-37-4832)

# 「こどもが走り出す、スポーツで動くまち・とよた」～地域と育む、ミライのエンジン～

## <目標> 計画期間：～令和13年3月31日

### ①こどもたちが夢と希望を持ち、自らのミライを切り拓く力を育む！

KPI1：夢の教室、とよたスポーツ体験講座実施校増加 ⇒ 延べ20,000人、KPI2：スポーツを現地で観戦した市民の割合増加 ⇒ 延べ780,000人

### ②こどもたちが地域とつながり合い、様々な体験と感動を通じて、地域への愛着と誇りを持つ！

KPI3：地域スポーツクラブが活動する地域の増加 ⇒ 28/28地域、KPI4：地域スポーツクラブ、とよた地域クラブの指導者等の人数増加 ⇒ 1,400人

## <PRポイント>

その1：本市ゆかりのアスリート等との交流や応援を通して、**地域への愛着と誇りを育み、こどものミライに夢と希望**をつります！

その2：「とよた地域クラブ活動」は、スポーツ機会の提供だけでなく、**こどもたちが地域とつながり合うコミュニティ**を形成します！

その3：地域スポーツクラブ活動地域を拡大し、**みんなが元気・笑顔になれるまちづくり**を目指します！

## <現状・課題>

**現状** ・地元企業チームと相互支援協定を結び、協力の素地が整っている

・地域スポーツクラブが市内28中学校区のうち13中学校区で運営している

**課題** ①少子化の進行や家族形成世代（25-39歳）の市外転出が増加

②コロナ禍以降、地域のつながり減少による地域コミュニティの希薄化が進行

③こどものスポーツ機会の減少、地域スポーツクラブ未活動地域のスポーツ実施率の低下

## <総合的な取組内容>

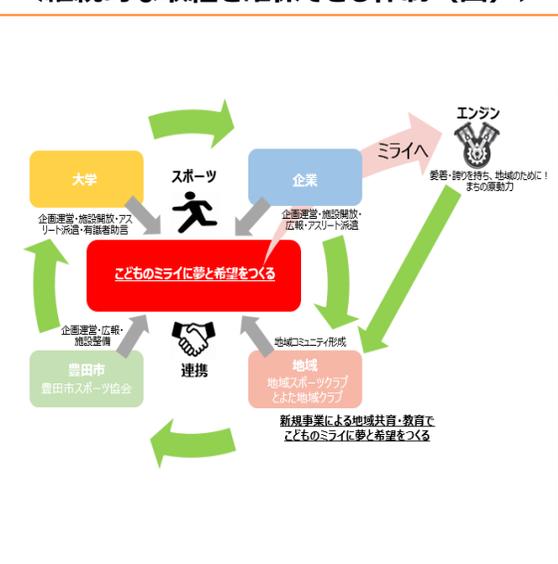
### こどもたちが夢と希望を持ち、自らのミライを切り拓く力を育む



### こどもたちが地域とつながり合い、様々な体験と感動を通じて、地域への愛着と誇りを持つ



## <継続的な取組を確保できる体制（図）>



## <セルフチェックシート>



# 「こどもが走り出す、スポーツで動くまち・とよた」～地域と育む、ミライのエンジン～

【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

豊田市魅力創造部スポーツ振興課推進担当  
(0565-34-6632)

# 「夢の循環プロジェクト ～心が踊り、感動が舞い、夢を育む～」

＜目標＞ 計画期間：～令和10年3月31日

## ダンス等のスポーツを通じて、心が踊り、感動が舞う取組を展開し、夢を育むきっかけを創る

- ①スポーツをする子どもの増加↑
  - ②子どもの体力・運動能力の向上↑
  - ③不登校の児童生徒の減少↓
  - ④将来の夢がある子どもの増加↑
  - ⑤交流人口の増加↑
  - ⑥市民の運動実施率の向上↑
- (主なKPI: 将来の夢を持っている子どもの割合を令和元年度時点の数値まで増加させる = 小学生81.1%、中学生70.9%)

## ＜PRポイント＞

- ▼LDH JAPANとの「連携キックオフ宣言」に基づく全国初の中学校ダンス授業の取組「ダンスドリームプロジェクト」
- ▼関西経済連合会との連携によるオリンピック（加盟企業所属選手）を先生に迎えたスポーツ教室「夢の学校」
- ▼中学生が授業の一環で「みえ松阪マラソン」にスタッフとして参加し、大会を支える経験や全国のランナーと交流

## ＜現状・課題＞

- ①スポーツをする子どもの減少（スポーツ少年団団員数および中学校運動部員数の減少↓）
- ②子どもの体力・運動能力の低下（小・中学生の男女ともに全国および県の平均値を下回っている↓）
- ③不登校児童生徒の増加↑
- ④将来の夢がある子どもの減少（夢を持っている小学生79%・中学生66% ↓）

## ＜総合的な取組内容＞

### ダンスドリームプロジェクト

～松阪市のミライを担う君たちへダンスを通じて伝えたいメッセージ～



市内全11中学校の生徒に対し、EXILE TETSUYA氏がダンスを通じて、仲間とともに取組むことの達成感、自分の意思を表現することの大切さ、そして、夢を持ち実現することの素晴らしさを伝える。  
▼EXILE TETSUYA氏監修のDVD教材（文科省選定）を全校に導入しダンス授業を実施。（約10時間）  
▼EXPGダンススクールのインストラクターや三重高校ダンス部員を各中学校に派遣してダンス授業を支援等。

「夢の学校～わくわくミライ教室～」オリンピック等を「先生」に迎え、子どもたちを対象とした「スポーツ教室」を開催。各競技の技術指導はもとより、夢を持つことの素晴らしさなど“夢のチカラ”を子どもたちに直接伝えてもらうことで、子どもたちが夢を育むきっかけを創り、「先生」から子どもたちに世代を超えて夢を繋いでいく。

企業・団体と連携強化を図り、大会誘致やイベント連携、みえ松阪マラソン開催等により好循環を創出し、交流人口増加や運動実施率向上に繋げ、子どもたちの夢を育み、シビックプライドの醸成に繋がるよう取組を進める。

【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

## ＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



## ＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

松阪市教育委員会事務局スポーツ課  
TEL:0598-53-4402



# 世界に〇〇！“スポーツ立県とくしま”地域活性化プロジェクト

スポまち！表彰2025

徳島県

＜目標＞ 計画期間：～令和10年3月31日

## 1 スポーツカの向上

県民のスポーツ機会創出  
AIカメラ等のスポーツDXによる情報発信

## 2 スポーツ環境の向上

県内スポーツ施設の改修  
安心して活動できる環境を提供

## 3 スポーツ振興によるにぎわいづくり

国内外のスポーツ大会や合宿を誘致し、  
地域活性化を図る

成人のスポーツ実施率 70%（実績）→ **75%（R10）** 国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数（累計） 52件（実績）→ **100件（R10）**

## ＜PRポイント＞

- ① AIカメラを活用したスポーツ撮影配信により、**県内外および世界に徳島県のスポーツの魅力を発信**
- ② アスリートが安心して活動できる環境提供のため、**県内施設の改修工事を実施**
- ③ 国際大会「**ワールドマスターズゲームズ2027関西**」の開催

## ＜現状・課題＞

- ・合宿誘致や大会開催に取り組んでいるが、知名度・集客力は限定的である。
- ・スポーツを活用した国際交流や経済効果を持続的に生み出す新しい形の発信が求められる。
- ・既存施設の老朽化対策や安全対策など、誰もが気軽にスポーツに参加できる環境整備が必要である。
- ・運動習慣を持つ県民の割合が十分でなく、子どもから高齢者まで運動機会の不足が健康課題の一因となっている。

## ＜総合的な取組内容＞

知名度・集客力が限定的

世界に“とどける”

むつみスタジアムに設置したAIカメラ配信でスポーツを更に身近に&魅力や情報を発信



参加者 & 視聴者の声（一部抜粋）

- ・子どもたちも振り返りができ、大変満足しております。
- ・スタンドとは違う、見ることのない目線での映像がとても良かったです。
- ・他府県より応援に来られない方や他の選手達がリアルに応援することができ、大変満足しています。

誰もが気軽に参加できる  
環境整備

世界に“つなげる”

オロナミンC球場の改築、むつみスイミングの屋根設置等など安心して活動できる環境の提供



スポーツを活用した  
国際交流

世界に“ひろげる”

ワールドマスターズゲームズ2027関西の開催や万博での情報発信にて国際交流の機会創出



世界とつながり、挑戦と感動が循環する  
“スポーツ立県とくしま”の地域活性化を実現

## ＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

徳島県

徳島県

全体の企画・調整・予算管理

官民連携体制で実施  
持続可能かつ効果的に推進

Tokushima Sports Commission



徳島県スポーツコミッション  
大会・合宿誘致、  
関係団体との調整、広報

徳島県スポーツ協会  
各スポーツ競技団体  
スポーツ振興、競技団体との  
連携・調整、施設管理

## ＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

徳島県観光スポーツ文化部 スポーツ振興課  
088-621-3237

＜目標＞ 計画期間：～令和10年3月31日

## 温泉とスポーツDXを融合させた別府発の新たな地域ブランドの確立を目指す

スポーツDXを軸とした新たな人の流入を促進するとともに、地域経済の活性化を図ります。

- ①市民のスポーツ実施率増加
- ②観光客数の増加
- ③主要スポーツ施設の利用者数増加
- ④AIカメラ配信試合数の増加

## ＜PRポイント＞

**Point 1** 別府市の象徴である「温泉」の効能可視化を実現し、**心身の健康増進・長期滞在型観光**の推進

**Point 2** 市内のスポーツ3施設にて設置したAIカメラを活用して**大会・試合の映像配信、振り返りなどスポーツDX**を推進

## ＜現状・課題＞

- ・スポーツ施設を「**地域のにぎわい創出**」「**定住・長期滞在促進**」の拠点として再定義する取り組みの加速
- ・**世界有数の温泉資源**と他の**地域資源との接続**による相乗効果を狙った取り組みの加速
- ・関係人口の拡大および将来的な定住を促す**継続的な魅力の発信**の強化

## ＜総合的な取組内容＞

### 温泉を活用した回復・健康促進&スポーツDXを軸とした人の流入促進の融合によって 新湯治・ウェルネスの推進（「交流・定住・健康」の好循環の創出）

#### 1 温泉を活用した様々な取組

- ・大会後や合宿中のリカバリー・リラクゼーション
- ・観光宿泊分野以外の分野との連携、波及  
→新たな付加価値の創出

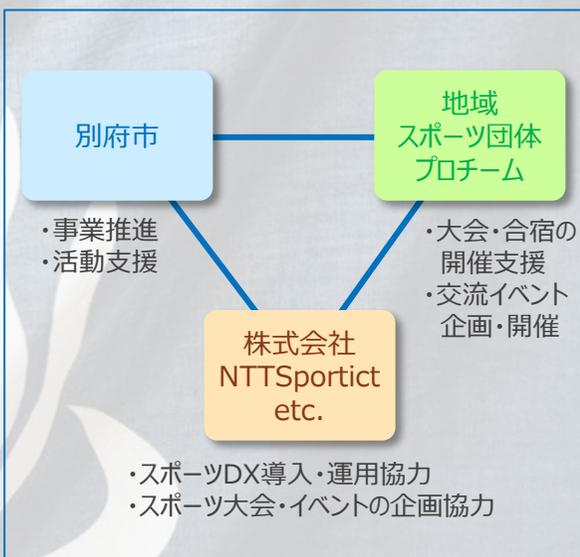


#### 2 AIカメラ導入、配信サイト開設による大会・試合の配信

- ・スポーツをいつでも気軽に映像化、配信、振り返りに活用
- ・スポーツを起点としたまちづくり推進
- ・全国大会の開催、合宿誘致の付加価値創出



## ＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



## ＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

別府市いきいき健幸部 スポーツ推進課  
0977-21-8088

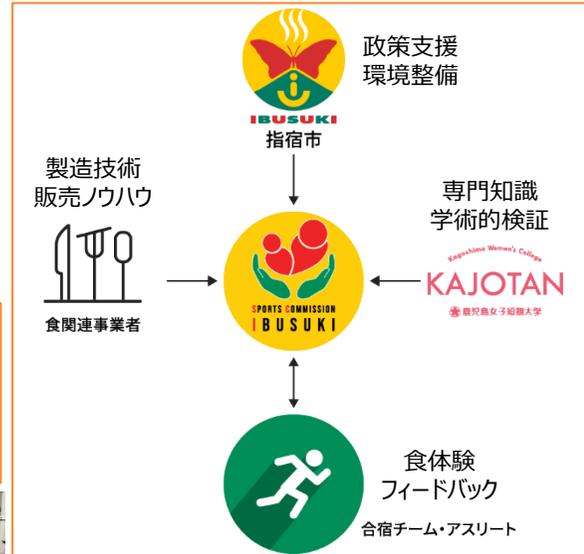
# アスリート・ミール・プロジェクト ～産学官連携による持続可能なスポーツまちづくり～

スポまち！表彰2025  
⑩鹿児島県指宿市

＜目標＞ 計画期間：令和7年4月1日～令和9年3月31日

<b>地域一体型スポーツサポート体制の構築</b> 2026年夏にアスリート向け食体験を商品化し、指宿市全体で統一されたおもてなしブランドを確立	<b>継続的な地域経済循環の創出</b> 三方よしの仕組みにより、大学の実践教育、事業者の優先受注権確保、市のブランド力向上を同時実現
<b>実践的人材育成</b> 栄養学専攻学生への商品開発・マーケティング実践機会を年間延べ100名に提供	<b>主な数値目標(KPI)</b> 開発商品数：5種類／参画事業者数：7社／ 年間販売数量：3,000食／学生参画数延べ：100名

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



## ＜PRポイント＞

- 真の三方よし産学官連携モデル：**市（統一ブランドによるおもてなし力向上）、大学（実践的商品開発・マーケティング体験）、事業者（初期参画効果＋継続的優先受注権）の三者が明確なメリットを享受
- 科学的根拠に基づく実践的教育プログラム：**鹿児島女子短期大学の専門知識を活用し、学生が在学中に商品開発から販売まで一貫して体験可能な教育モデル
- 持続可能な地域経済循環システム：**一過性の支援ではなく、優先受注権等による継続的なビジネス機会を地域事業者を提供する仕組み

## ＜現状・課題＞

- 指宿市全体で統一されたスポーツサポート体制が道半ば
- 各施設・事業者がばらばらに対応しており、指宿ブランドとしての一体感が不十分
- 大学の専門知識と地域産業を結びつける実践的な産学連携プロジェクトが不足
- 地域事業者が継続的にスポーツ関連ビジネスに参画できる仕組みが未整備
- アスリートの栄養管理という専門性の高い分野での地域一体的なサービス提供体制の必要性



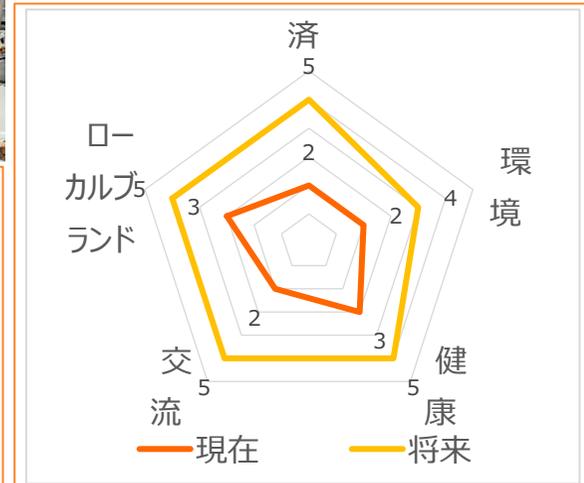
## ＜総合的な取組内容＞

<b>フェーズ1: 商品開発</b> ・栄養学的根拠に基づく商品設計 ・地域食材を活用したレシピ開発 ・携帯性と栄養バランスを両立した新形態食体験の創出	<b>フェーズ2: 試作・検証</b> ・合宿チーム・大会での実証実験 ・栄養効果の科学的検証 ・食体験魅力度の測定	<b>フェーズ3: 商品化・展開</b> ・商品の正式リリース ・合宿チーム・大会への本格提供 ・継続的な品質向上と商品展開	<b>持続的な展開</b> ・商品ラインナップの拡充(5種類以上) ・優先受注権による事業者の継続参画 ・学生への実践教育機会の定着化 ・地域経済循環システムの確立
---	---	---	--

### ★まち全体でのおもてなし文化の定着★

- 産学官連携による人材育成の継続的実施により、おもてなし精神を持った市民を絶えず排出
- 市民が自分事としてアスリートを迎え、まち全体で受け入れる文化を醸成
- 旗振り役がいなくとも持続可能な受け入れ体制を構築（人口減少時代の地方における新しいモデル）

## ＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

鹿児島県指宿市スポーツ振興課  
0993-23-1014

【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

# 歩く・動く・巡る ロゲイニングでつながるまち大崎町 ～スポーツで生む地域の健康と交流～

スポまち！表彰2025  
⑰ 鹿児島県大崎町

＜目標＞ 計画期間：～令和 10 年 3 月 31日

全国有数の陸上（スポーツ）合宿地としての強みを活かし、「歩く・動く・巡ることを楽しみに変える」仕組みを整備する。町民の健康づくりのきっかけ、観光や合宿者には町を巡る交流のきっかけを提供し、町民・観光客・合宿者が自然に交わり、日常と非日常をつなぐ体験を生み出すことで持続可能で活力ある地域モデルを築く。

【KPI：○ロゲイニング参加者数 R7.3 0人→R10.3 300人 ○地域通過運動健康アプリの導入 R7.3 0人→R10.3 2,400人 他】

## ＜PRポイント＞

- ・**合宿受入実績**：全国から選ばれる拠点施設を活かし、交流と経済効果を拡大。
- ・**独自の仕組み**：ウォーキングアプリ×ロゲイニング×モビリティで周遊型体験を創出。
- ・**地域資源活用**：点在する自然・特産品を巡る仕掛けにより町民と来訪者が交わる交流を醸成。

## ＜現状・課題＞

- ① 観光資源は町内各地に点在し交通手段も乏しく交流人口や観光消費の拡大効果は限定的である。
- ② 車社会の影響で日常的に歩く習慣が育ちにくく、町民の生活習慣病や歩行不足など健康課題も残されている。
- ③ 町を巡るきっかけが不足し、健康づくりや地域経済活性化につながる仕組みが十分に機能していない。

## ＜総合的な取組内容＞

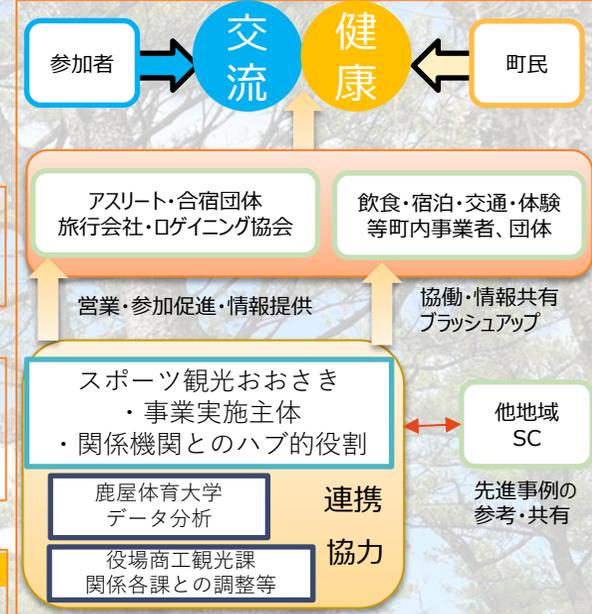


ロゲイニングや次世代モビリティと組み合わせ、町民・観光客・合宿者が町を巡り合う仕組みを展開する。町内チェックポイントで世代や立場を超えた交流創出。

地域通貨連動型ウォーキングアプリを軸に、歩数・イベント・健康診断を加点化。健康増進と経済循環を同時に実現する。

歩く・動く・巡る ロゲイニングでつながるまち大崎町 ～スポーツで生む地域の健康と交流～

## ＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



## ＜セルフチェックシート＞



問合せ先・電話番号

大崎町役場 商工観光  
TEL:099-476-1111(内線231)

# 『離島と全国を繋げるスポーツDX』

## ～【離島のハンディ克服】AIカメラを活用したオンライン指導～

スポまち！表彰2025  
⑱沖縄県石垣市

### <目標>

計画期間：～令和8年3月31日

- ◆ **離島という地域特性である課題**を**スポーツDX「マチスポ」**を活用して質高く解決していく。
- ◆ 本市のスポーツ施設3か所に**導入したマチスポのAIカメラを活用**して、島外の一流指導者・選手等を招いた**オンライン指導**を行う。安定的な指導者確保、トップレベルの指導を受ける環境の整備を行う。
- ◆ 島内指導者へもトップレベルの分析を味わえることで**指導力の向上**を図る。
- ◆ 令和8年度末には10団体による遠隔指導の導入を目指す。



### <PRポイント>

- ◆ **パートナーシップ制度を創設**し、石垣島スポーツコミッションを中心に、石垣島の課題解決を一緒に取り組むパートナー企業とタッグを組むことで、**多方面から協力が得られ、事業を強力に加速できる仕組みを構築**
- ◆ 充実したスポーツ資源に加え、より質の高いトレーニングができるよう**スポーツDXを活用した環境を整備**

### <現状・課題>

- ◆ 離島という地域特性の「ハンディ」を抱えている
  - ⇒ 指導者の島外異動や保護者のボランティア指導者が多く、**指導者の質や人数が安定しない**
  - ⇒ プロチームが無く試合観戦も容易にできないため、**一流の選手・指導者に日頃から触れ合うことができない**

### <総合的な取組内容>

① 事前にAIカメラで 試合を撮影  
② 撮影した映像をコーチが分析  
オンラインで生徒に指導

③ オンライン指導を通じてコーチと生徒が交流



オンライン指導ではプレーに対するアドバイスに加え「成長するためには何が必要か映像を振り返って考えることの大切さ」を学ぶ

- ◆ 普段接する機会がない一流指導者・選手や、高等教育機関のない石垣島で大学生・専門学生からオンラインで**質の高い指導を受けることが可能**になることに加え、オンライン指導での交流は**将来の人生設計にも寄与**する。
- ◆ また石垣島の**指導者育成にも繋がり**、地域スポーツの価値向上に寄与する。

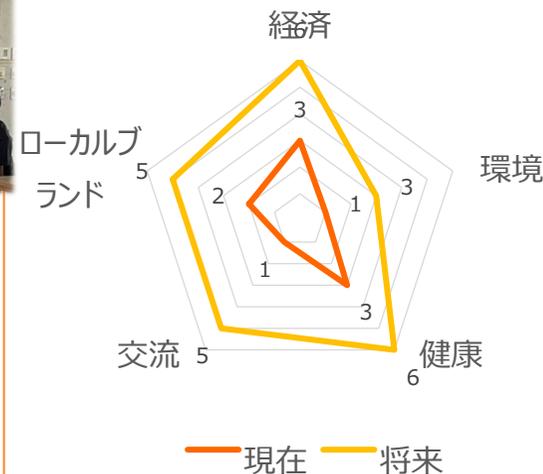
地域スポーツの価値向上により、競技者のモチベーション向上、関係人口の増加、スポーツツーリズムの創出など、**地域経済への貢献**が大いに期待できる。また**セカンドキャリア支援**にも期待できる。

**スポーツDXの活用は、競技・観光・移住など様々な面で全国と石垣島を結ぶ架け橋となる**

### <継続的な取組を確保できる体制（図）>



### <セルフチェックシート>



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

石垣市企画部スポーツ振興課  
TEL : 0980-88-6666